

令和元年度

---

---

東松山市の男女共同参画に関する  
アンケート

---

---

報告書

東松山市

# 目次

第1章 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査の方法	1
3 調査内容	1
4 回収結果	1
5 報告書の見方	1
第2章 調査結果の概要	2
1 回答者の属性	2
2 調査結果の考察	5
第3章 調査結果	7
1 男女平等に関する意識について	7
問1 男女共同参画等に関する言葉の認知度	7
2 家庭生活について	8
問2 男女がともに家事、育児、介護、地域活動に参加するために必要なこと	8
3 就業について	10
問3 女性の働き方について	10
4 仕事について	12
問4 仕事と家庭の両立に必要なこと	12

5	社会参加について	14
	問5 女性が政策・方針決定の場に進出するために必要なこと	14
6	暴力について	16
	問6 夫婦間の加害行為について	16
7	市の男女共同参画の推進に関する施策について	17
	問7 男女共同参画社会実現のために市が力を入れていくべきこと	17
8	男女共同参画社会の実現に向けて自由意見（抜粋）	19
第4章 使用した調査票		25

# 第1章 調査の概要

## 1 調査の目的

この調査は、男女共同参画に関する市民の意識や実態を把握し、基本計画の見直し（令和2年度）及び今後の市の男女共同参画の推進に反映させるための基礎資料とすることを目的として実施しました。

## 2 調査の方法

- (1) 調査地域：東松山市全域
- (2) 調査対象：市内在住の満18歳以上の男女2,000人
- (3) 抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出
- (4) 調査方法：郵送配布、郵送回収
- (5) 調査期間：令和元年9月9日～9月30日

## 3 調査内容

- (1) 男女平等に関する意識について
- (2) 家庭生活について
- (3) 女性の働き方について
- (4) 仕事と家庭の両立について
- (5) 社会参加について
- (6) 暴力について
- (7) 市の男女共同参画の推進に関する施策について

## 4 回収結果

	配布数（票）	有効回収数（票）	有効回収率（%）
男 性	997	387	/
女 性	1,003	573	
その他/回答しない		2	
無回答		4	
合 計	2,000	966	

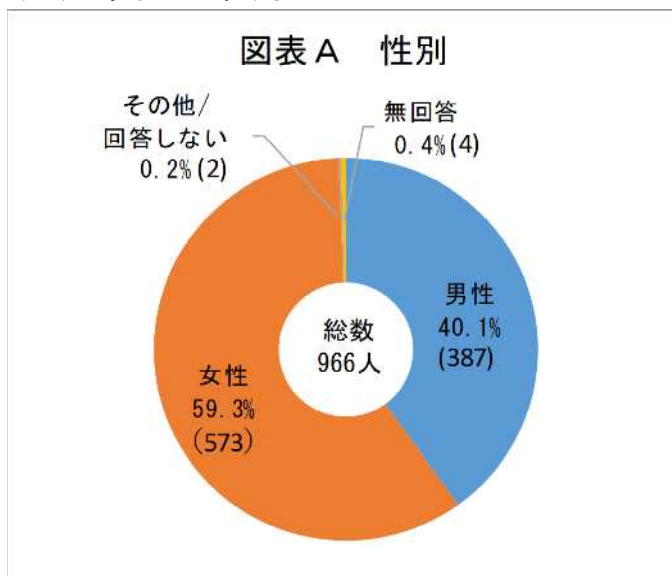
## 5 報告書の見方

- ・回答の比率（%）は、その設問の回答者数を基数として算出しています。そのため、複数回答の場合、選択肢ごとの割合を合計すると100%を超えることがあります。
- ・回答の比率（%）は小数点以下第2位四捨五入により端数処理しています。そのため、属性ごとの回答比率の合計が、合計欄の数値と一致しないことがあります。
- ・各設問において、性別など調査対象者の基本属性にかかわる図・表については、基本属性に「その他/回答しない」と「無回答」があるため、全体の数値と一致しません。
- ・図表中（ ）内の数値は実数を、小数点の数値は百分率（%）で表しています。

## 第2章 調査結果の概要

### 1 回答者の属性

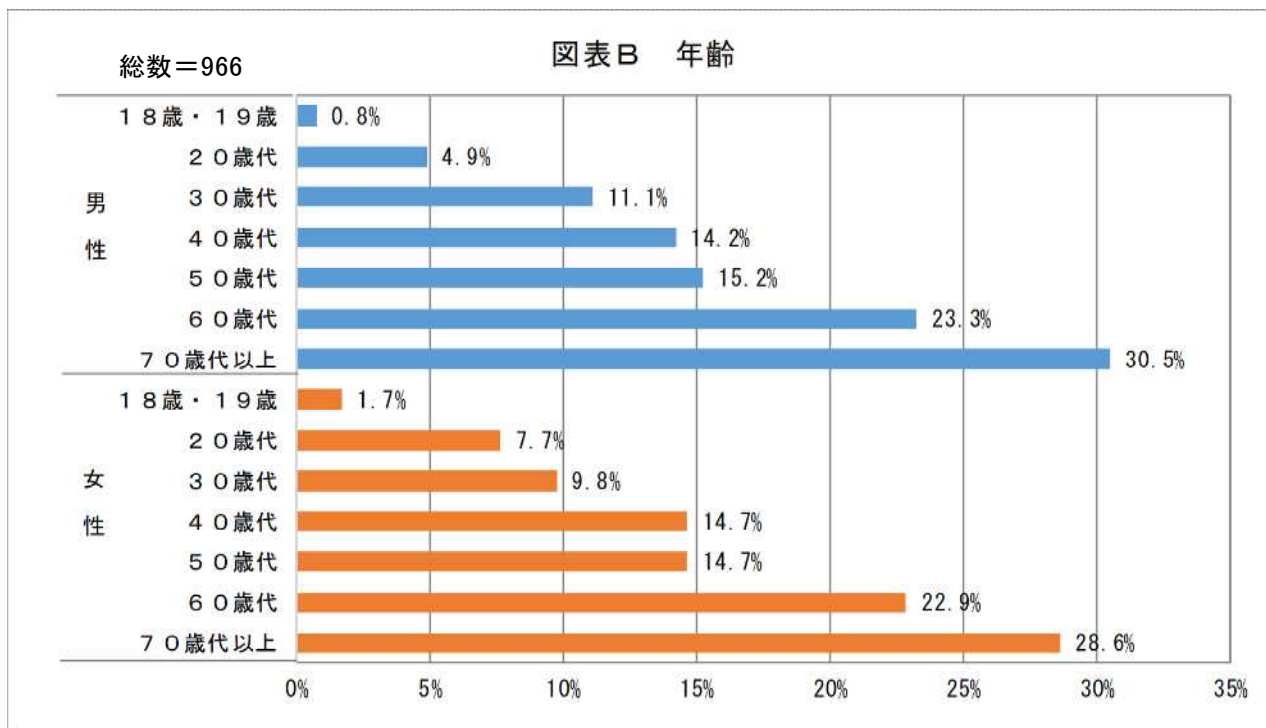
#### (1) あなたの性別は



今回調査の回答者のうち、男性（40.1%）、女性（59.3%）で、19.2ポイント女性が上回っています。

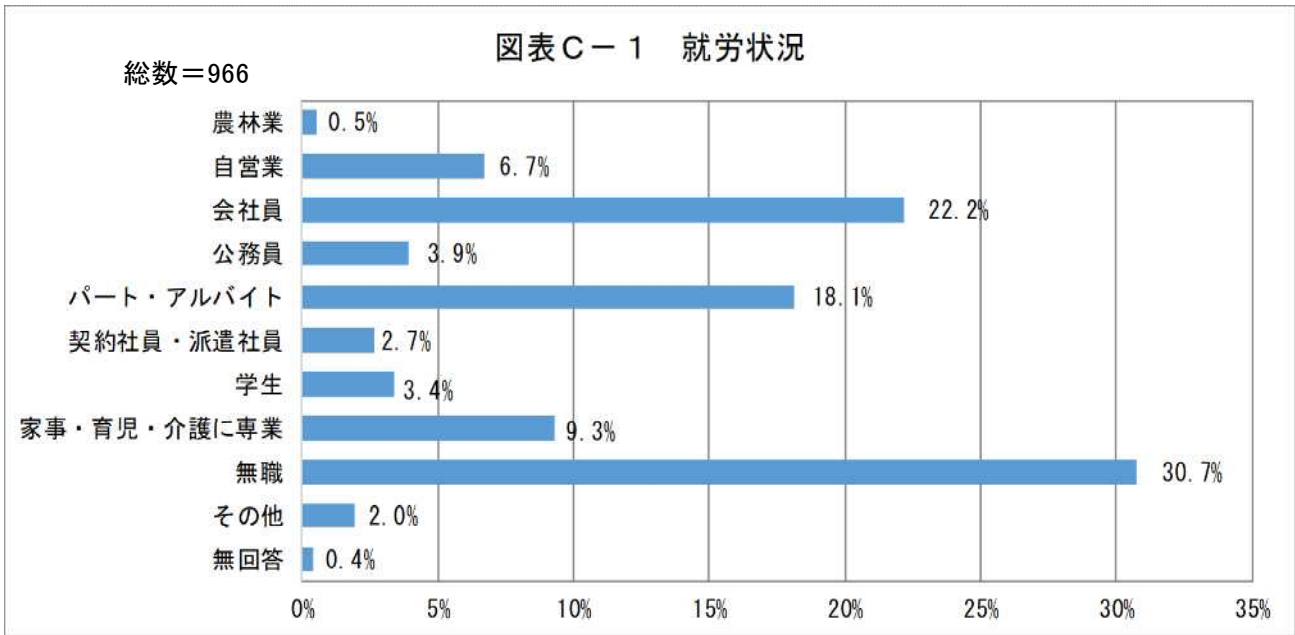
性別について、その他/回答しないとした人が0.2%います。（図表A）

#### (2) あなたの年齢は



男性、女性ともに年代が高くなるほど回答が多くなっています。30歳代から50歳代の回答はほぼ同じ位となっています。（図表B）

(3) あなたの職業は



○全体では、「無職」が30.7%で最も多く、次いで、「会社員」が22.2%となっています。(図表C-1)

○男女別にみると、男性は「会社員」が34.9%と最も多く、次いで「無職」が32.3%となっています。「無職」が多いのは、定年後の60歳～70歳代の回答者が多いことが、原因と思われます。

女性は、「無職」が29.7%で最も多く、次いで「パート・アルバイト」が25.0%となっています。

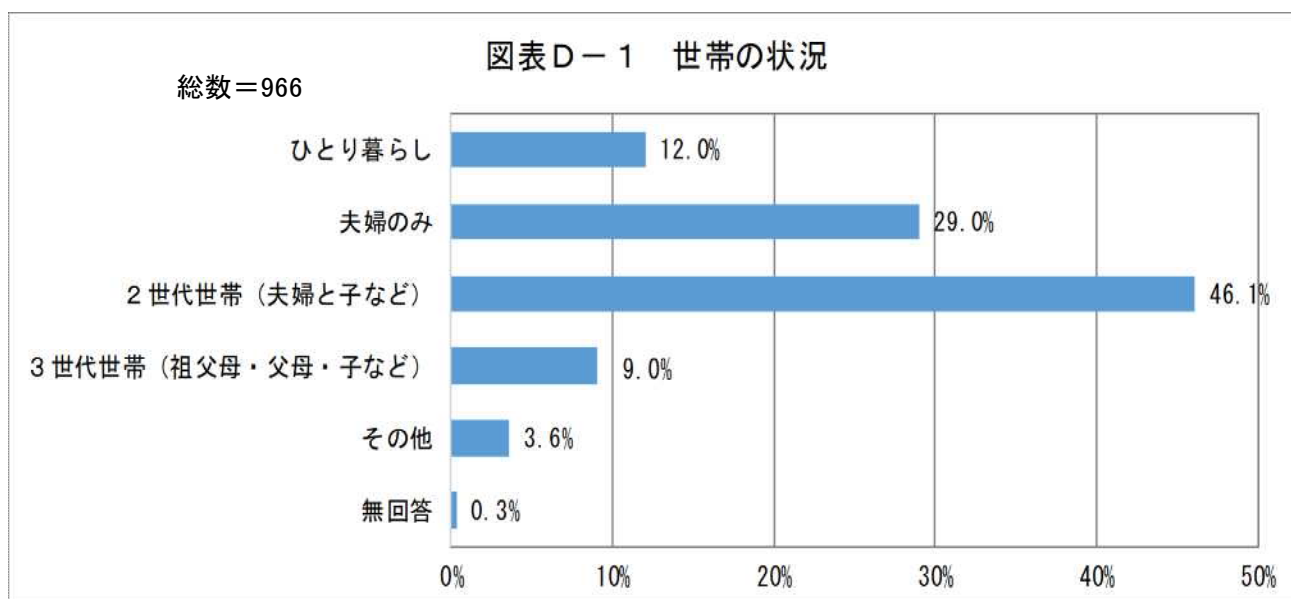
「家事・育児・介護に専業」は女性15.7%いますが、男性は0%となっています。

(図表C-2)

図表C-2 就労状況—性別年代別

		農林業	自営業	会社員	公務員	パート・アルバイト	契約社員・派遣社員	学生	家事・育児・介護に専業	無職	その他	無回答	総計
性別	年齢												
	18・19歳	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3
男性	20歳代	0	0	7	2	3	0	6	0	0	1	0	19
	30歳代	0	2	32	7	2	0	0	0	0	0	0	43
	40歳代	0	5	41	5	1	1	0	0	0	1	1	55
	50歳代	0	8	40	4	0	1	0	0	4	1	1	59
	60歳代	3	15	13	5	17	3	0	0	34	0	0	90
	70歳代以上	2	12	2	0	9	1	0	0	87	5	0	118
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	5	42	135	23	32	6	9	0	125	8	2	387
		1.3%	10.9%	34.9%	5.9%	8.3%	1.6%	2.3%	0.0%	32.3%	2.1%	0.5%	100%
女性	18・19歳	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	10
	20歳代	0	1	16	3	4	2	13	4	1	0	0	44
	30歳代	0	0	18	2	19	3	0	7	5	1	1	56
	40歳代	0	2	23	7	35	6	0	9	1	1	0	84
	50歳代	0	4	16	3	37	3	0	13	4	4	0	84
	60歳代	0	9	2	0	40	5	0	32	40	3	0	131
	70歳代以上	0	7	2	0	8	1	0	25	119	2	0	164
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	0	23	77	15	143	20	23	90	170	11	1	573
	0.0%	4.0%	13.4%	2.6%	25.0%	3.5%	4.0%	15.7%	29.7%	1.9%	0.2%	100%	
その他/回答しない	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2	
無回答	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	1	4	
総計	5	65	214	38	175	26	33	90	297	19	4	966	
	0.5%	6.7%	22.2%	3.9%	18.1%	2.7%	3.4%	9.3%	30.7%	2.0%	0.4%	100%	

(4) あなたの世帯の状況は



○世帯の状況については、「2世代世帯(夫婦と子など)」が46.1%を占め、次いで「夫婦のみ」が29.0%となっています。

「ひとり暮らし」は、12.0%となっています。(図表D-1)

○性別年代別では、男女ともに、それぞれ「2世代世帯(夫婦と子など)」が多く、次いで「夫婦のみ」の割合が高くなっています。「ひとり暮らし」は、男女ともに10%強となっており、女性の70歳代以上が特に多くなっている。(図表D-2)

図表D-2 世帯の状況—性別年代別

		ひとり暮らし	夫婦のみ	2世代世帯(夫婦と子など)	3世代世帯(祖父母・父母・子など)	その他	無回答	総計
性別	年齢							
男性	18・19歳	0	0	2	1	0	0	3
	20歳代	2	2	12	1	2	0	19
	30歳代	3	5	27	6	1	1	43
	40歳代	6	6	35	6	2	0	55
	50歳代	7	12	29	10	1	0	59
	60歳代	14	40	26	8	2	0	90
	70歳代以上	13	63	34	6	2	0	118
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
	合計	45	128	165	38	10	1	387
		11.6%	33.1%	42.6%	9.8%	2.6%	0.3%	100%
女性	18・19歳	0	0	8	2	0	0	10
	20歳代	8	2	26	8	0	0	44
	30歳代	1	1	46	6	2	0	56
	40歳代	3	6	56	12	7	0	84
	50歳代	6	15	51	8	4	0	84
	60歳代	16	66	43	4	2	0	131
	70歳代以上	36	62	47	9	10	0	164
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
	合計	70	152	277	49	25	0	573
		12.2%	26.5%	48.3%	8.6%	4.4%	0.0%	100%
その他/回答しない		0	0	1	0	0	1	2
無回答		1	0	2	0	0	1	4
総計		116	280	445	87	35	3	966
		12.0%	29.0%	46.1%	9.0%	3.6%	0.3%	100%

## 2 調査結果の考察

### 「男女平等に関する意識についてうかがいます」

#### ・男女共同参画等に関する言葉の認知度（問1：p7）

##### 家庭生活や職場に直接関係のある言葉の認知度が高い。

男女共同参画等に関する用語について、「聞いたことがある」（「よく知っている」と「だいたいの意味はわかる」と「聞いたことがある」の合計）と回答したもので多かったのは、「ドメスティック・バイオレンス（DV）」（93.5%）、「育児・介護休業法」（91.1%）、「男女雇用機会均等法」（91.0%）でした。これらの言葉は、家庭生活や職場に直接関係があるため、関心が高いことがわかります。

他方、「東松山市男女共同参画推進条例」（36.9%）、「東松山市配偶者暴力相談センター」（40.5%）など市の施策に関する用語についての認知度が低く、より一層周知を図る必要があることがわかりました。

### 「家庭生活についてうかがいます」

#### ・男女が共に家事、子育て、介護、地域活動へ参加しやすくするために必要なこと（問2：p8）

##### 夫婦や家族間でのコミュニケーションが大切。

「夫婦や家族間でのコミュニケーションを良く図る」（75.5%）、「男性が家事等に参加することに対する抵抗感をなくす」（59.6%）の項目が高くなっています。

男性の家庭・地域参画を促すためには、夫婦や家族間の関わりを大切にして、男性が家事等に自然に参加できるように、社会の認識を改めていくことが必要と考えます。

##### 多様な働き方への関心。

「労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどの多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」（55.3%）の項目は、女性より男性の関心が高くなっています。

### 「就業についてうかがいます」

#### ・女性の働き方について（問3：p10）

##### 子育てを大切に考えながら、働き方を工夫し女性が働き続ける。

最も多かった回答は、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」（29.1%）で、家事や子育てをしながら、フルタイムで働くのは難しいと感じているようです。しかし、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」（23.3%）、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」（20.3%）が続いており、合わせると7割強の人が女性も働き方を変えながら仕事を続けることができると考えています。

他方、「子どもができるまでは仕事をもち、子どもができたなら家事や子育てに専念する」（9.8%）、「結婚するまでは仕事をもち、結婚後は家事に専念する」（3.0%）、「仕事はもたない」（0.3%）と女性の働き方として、育児・家事と仕事の両立には消極的な考え方も1割強となっています。

### 「仕事についてうかがいます」

#### ・仕事と家庭を両立するための必要条件（問4：p12）

##### 家族や周囲の理解と協力はもちろんのこと、子育て環境の整備の必要性。

男女がともに仕事と家庭を両立させるために必要なこととして、「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」（64.7%）を挙げる人が最も多いです。次に「家族や周囲の理解と協力があること」（63.3%）、「育児や介護のために退職した人をもとの会社で再雇用する制度を導入すること」（53.3%）、「地域の保育施設や保育時間の延長など保育を充実すること」（52.7%）、などに多く回答しており、子育てに関する環境整備を望んでいることがわかります。



## 「社会参加についてうかがいます」

### ・女性が、政策・方針を決定する場に進出するために必要なこと（問5：p14）

#### 男性だけでなく、女性自身の固定的役割分担への意識改革。

社会参加について、「家事や子育て、介護などを、男女がバランスよく分かち合うこと」（62.6%）、「『男は仕事、女は家庭』などという性別役割分担意識を解消すること」（60.2%）、「女性自身が、政策・方針を決定する場に参画することへの関心を高めること」（45.4%）に多く回答しています。周りの環境を整えることも大事ですが、女性自身の意識改革も重要であるようです。

## 「暴力についてうかがいます」

### ・配偶者等への加害行為（問6：p16）

身体に対する暴力以外にも様々な形態の暴力（精神的暴力、性的暴力、経済的暴力）があるという認識が広く浸透。

多くの方が「平手で叩いたり、足で蹴る」（84.7%）、「いやがるのに性的な行為を強要する」（83.4%）「突き飛ばす」（81.5%）、ではどんな場合でも暴力にあたると答えています。

ほかにも「大声で脅す、怒鳴る」・「ドアや壁を蹴る、物を投げる」・「大切にしている物を壊す、捨てる」・「交友関係を制限したり、携帯電話等を細かく確認する」・「必要な生活費を渡さない」行為も半数以上の方がどんな場合にも暴力にあたるかと考えています。他方、「何を言っても、長時間無視し続ける」では、半数以上の方が、暴力にあたる場合もそうでない場合もあると答えています。

身体に対する暴力以外にも様々な形態の暴力（精神的暴力、性的暴力、経済的暴力）があるという認識が広く浸透していることがわかります。

あらゆる暴力を排除し、お互いを思いやり、敏感になることが大切と考えます。

## 「市の男女共同参画の推進に関する施策についてうかがいます」

### ・男女共同参画社会実現のために市が力を入れていくべきこと（問7：p17）

市が力を入れるべきことの最も高いものは、就労の場における雇用や待遇に性別による差別がないようにする。

市が力を入れるべき施策として上位には、「就労の場における雇用や待遇に性別による差別がないようにする」（65.1%）や、「男性も女性も対等に仕事と家庭の両立ができるような、サービスの充実を図る」（61.7%）が挙げられています。

次いで「子どもの時から、家庭や学校で男女平等について教える」（58.5%）、「男女の固定的な役割分担意識について社会通念、慣習、しきたりを改めるよう啓発する」（49.9%）の回答が高くなっています。いずれも仕事と家庭が両立した生活を可能にする社会環境の整備が施策に求められています。

## 「自由意見」

### ・男女共同参画社会の実現に向けて（自由意見）（p19）

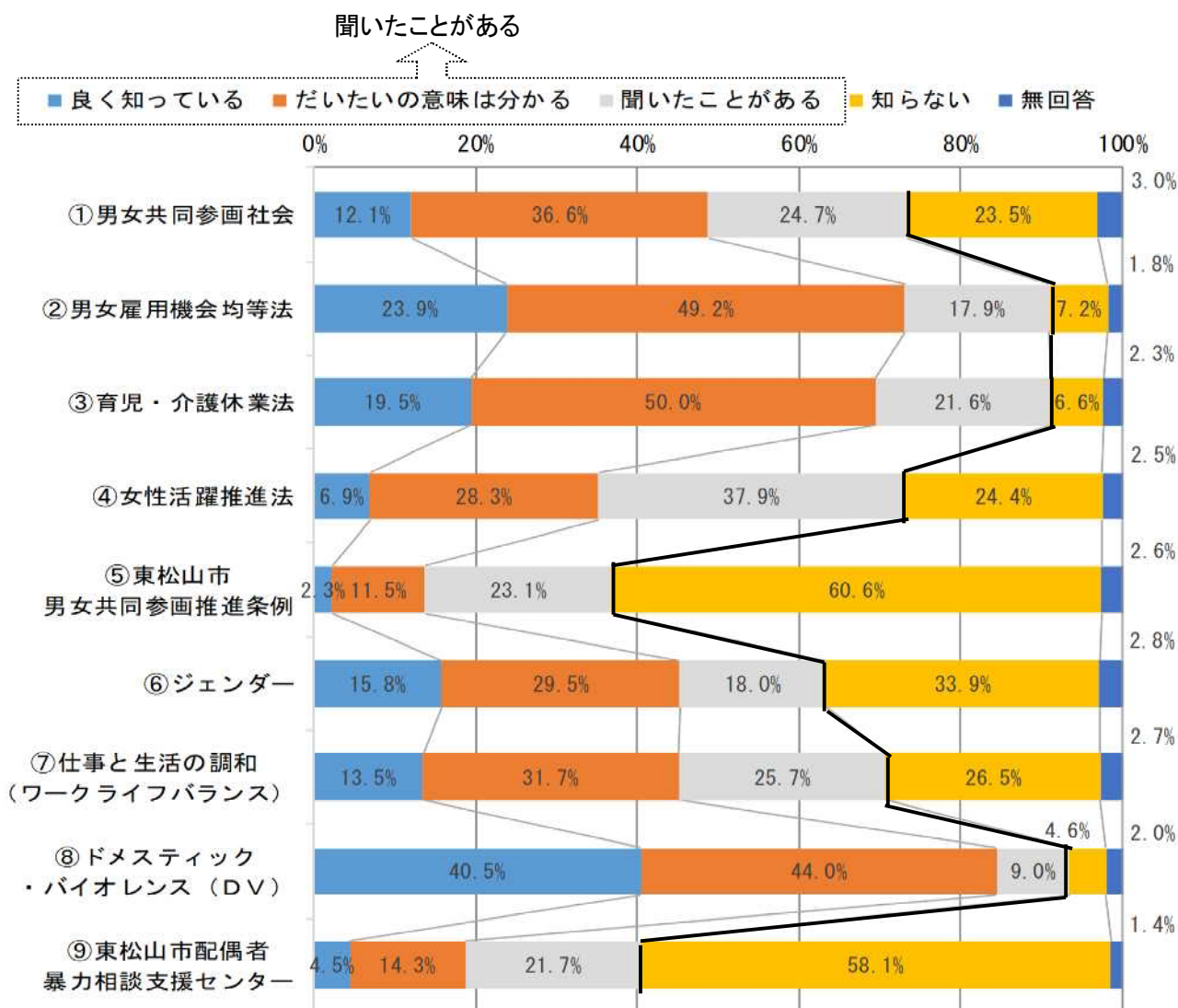
男女共同参画社会の実現についての意見や感想を、女性102人、男性86人、性別無回答1人、合計189人から、自由意見が寄せられました。

# 第3章 調査結果

## 1 男女平等に関する意識について

Q1 あなたは次の言葉を知っていますか。（項目ごとに○を1つ）

図表1 男女共同参画等に関する言葉の認知度



設問に挙げた項目のうち、「聞いたことがある」の合計（「よく知っている」と「だいたいの意味はわかる」と「聞いたことがある」）が多かったものは、「ドメスティック・バイオレンス」（93.5%）、「育児・介護休業法」（91.1%）、「男女雇用機会均等法」（91.0%）です。

「男女共同参画社会」、「女性活躍推進法」、「ジェンダー」、「仕事と生活の調和（ワークライフバランス）」の「聞いたことがある」の合計は70%前後となりました。

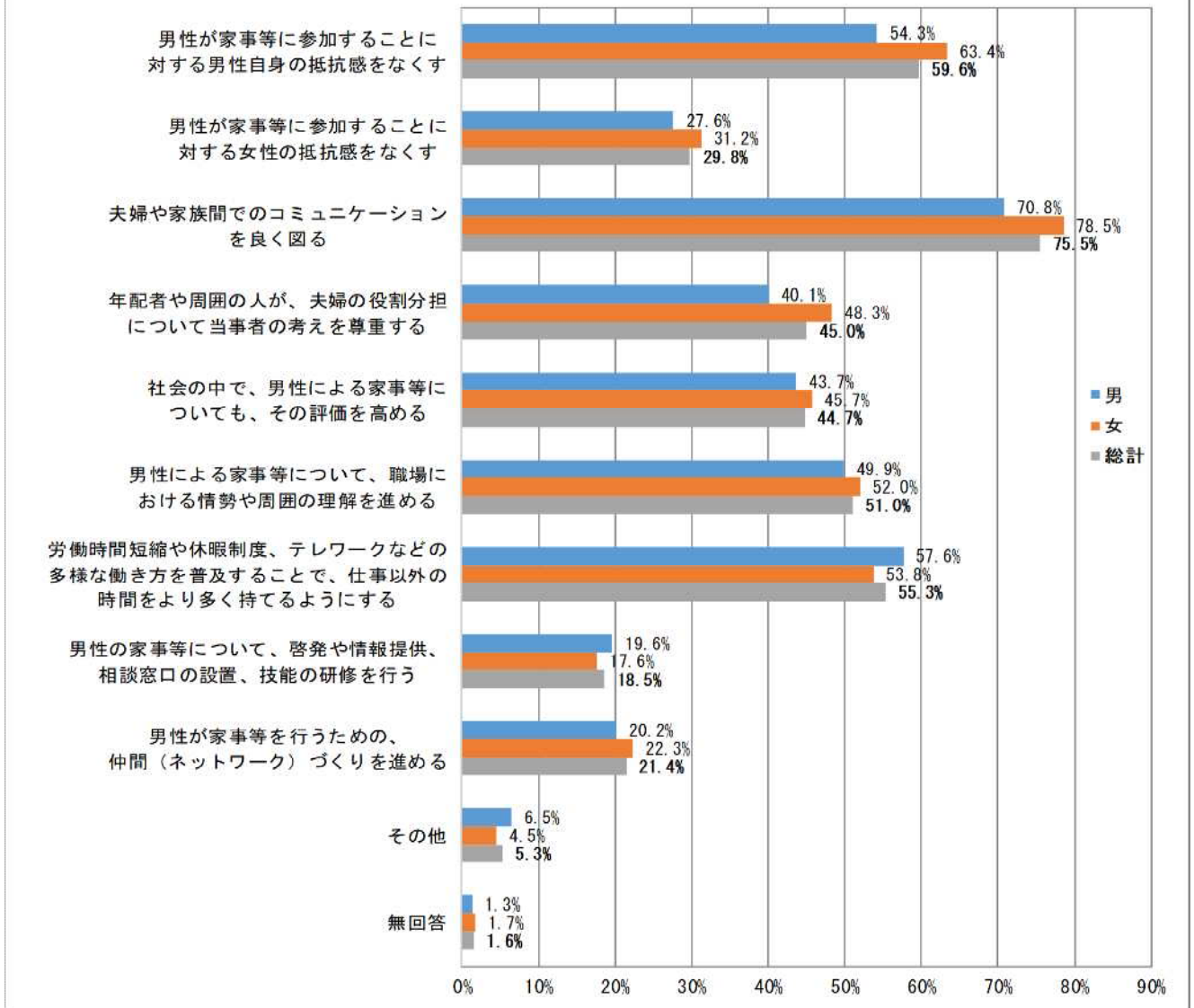
「東松山市男女共同参画推進条例」と「東松山市配偶者暴力相談支援センター」については、「聞いたことがある」の合計が40%前後と認知度の低い結果となりました。（図表1）

## 2 家庭生活について

### 問2 男女がともに家事、育児、介護、地域活動に参加しやすくするために必要なこと

Q2 今後、男女がともに家事、育児、介護、地域活動に参加しやすくするために、どのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

図表2 男女が家事、育児、介護、地域活動に参加しやすくするために必要なこと



回答の多かったものとしては、「夫婦や家族間でのコミュニケーションを良く図る」（75.5%）で「男性が家事等に参加することに対する抵抗感をなくす」（59.6%）が挙げられています。

「労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどの多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」は、男性が57.6%、女性が53.8%であり、3.8ポイント男性が上回っています。（図表2）

「その他」の自由記載欄

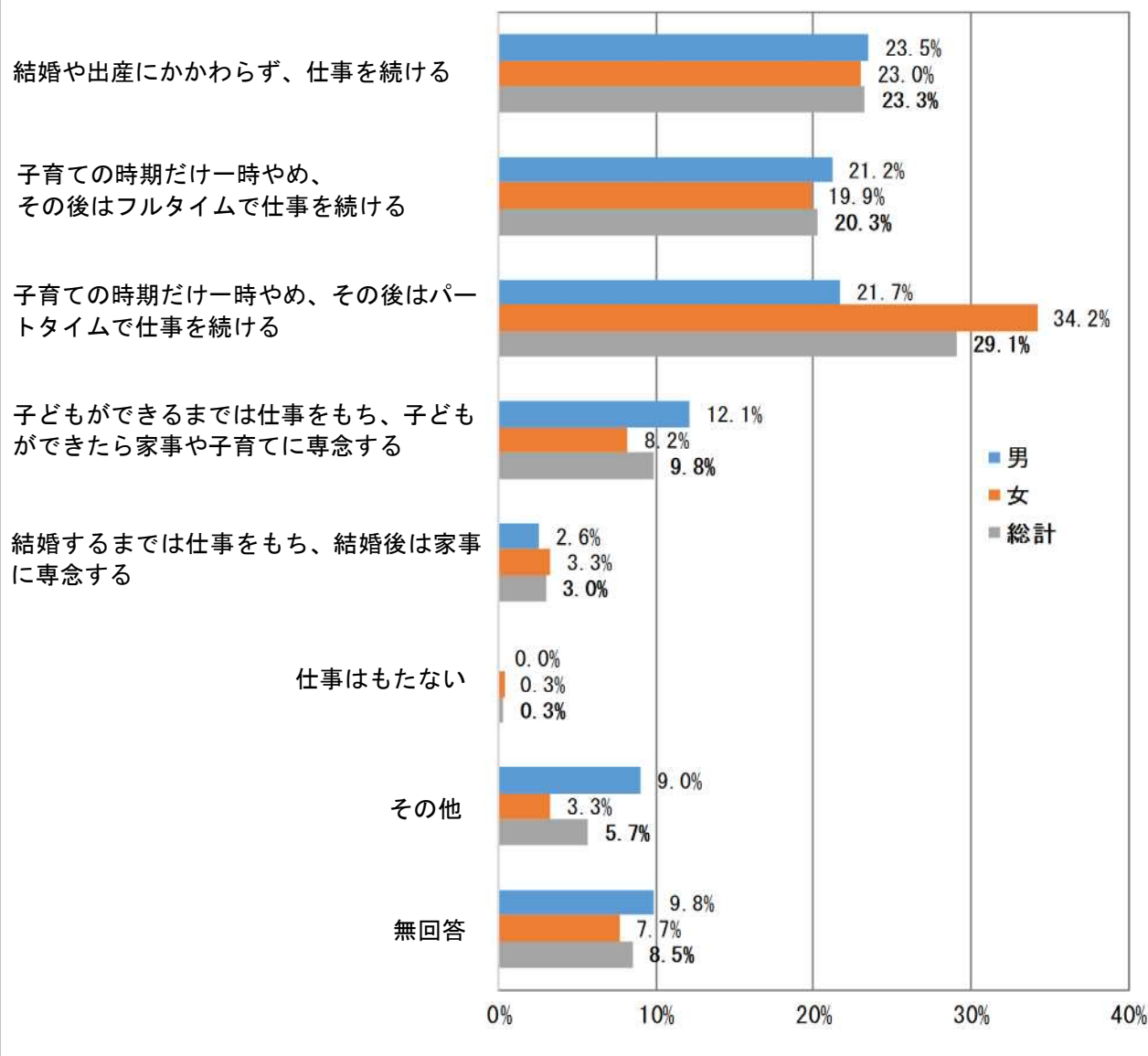
これまで日本の成長を支えていた伝統を保ちながら男性が参加すればよい。男性が家庭への比重を上げるだけでいい。	(男、50歳代)
家事・育児・介護・地域活動の社会的地位を高める必要がある。	(女、40歳代)
幼稚園、学校の行事、役員、役割への参加。	(女、40歳代)
男性の労働時間、給与等の改善が必要。	(男、70歳代以上)
早朝にも対応できる保育施設の充実。	(女、40歳代)
我家は、私が障害者なのでやむを得ず協力し合ってます。私なりにできる事務的な事はまかされていますが、若い人達が協力し合えるような社会の態勢になればよいですね。	(女、70歳代以上)
男女共に、「家族」を大切にすることを高めること。	(男、50歳代)ほか
共働きが当たり前になっているので、男も家事をやって当然。	(男、40歳代)ほか
女の分際で(女のくせに)なんだということを言わないこと。	(男、70歳代以上)
子育て中でも、男の子だから、女の子だからという事ではなくて、人間なんだからという所から、意識を変えていくべき。小さいころからの家事・手伝いに対する大切さを教えていくのが良い。大人になってからでは、なかなか難しいと思う。	(女、40歳代)
男女の賃金格差をなくす。仕事優先、会社優先にしなければならないという風潮を無くす。	(男、20歳代)
教育の場でコミュニケーションについて時間を多く取り入れ、他人、外国人誰でも会話できるようにする。	(男、70歳代以上)
学童保育を含む保育施設や介護施設に働く人の勤務条件の向上と介護保育内容の充実。	(女、60歳代)
子育てしている人だけでなく、社会全体が働き方を考える。	(女、20歳代)
無駄を省く。生産性を上げる。	(男、40歳代)
小・中・高など学校での家事や育児、介護の教育。	(女、60歳代)
家庭内でもあいさつ。おはよう。お願いします。ありがとう等。	(男、70歳代以上)
家事、育児、介護は人にさせるものではなく自分がやるものです。	(女、60歳代)
助けを求める、知識を請う、休みを得る、ためにポスターなどでPRする。	(女、30歳代)
お互いに助け合っていく事が一番大切だと思う。	(女、60歳代)ほか
男性が家事に参加する事は良いことと思いますが、仕事が第一と考えます。	(女、70歳代以上)
年配者など古い考えを持つ人の考え方を改める講演会などを行う。	(女、40歳代)
女性の意識改革が必要。男性が女性に家事を押し付けて何もしないという被害者意識の上に成り立っている考え方を捨てなければならない。	(男、60歳代)
平等とは思わない。それぞれの役割がある。それぞれの家庭の中で、各家庭の一番良い方法を夫婦で見つける。思いやりながら生活する。女性が楽になるのは?ではなく、どうしたら将来を楽しく生きられるのかを、皆でサポートする体制にするかを考えてほしい。	(女、70歳代以上)
先進国の様子を知る事が大事。「百聞は一見にしかず」日本が遅れている事に気がつく。	(女、70歳代以上)
「専業主婦」も立派な生き方だと考える。	(男、60歳代)
男性の地域活動参加の推進(定年退職者)。	(女、50歳代)
病児保育の充実。	(女、40歳代)
選挙の政党に女性候補を4~5割ふる。	(男、70歳代以上)
家事・地域活動は夫婦間で何とかなるが、育児・介護に関して職場で男性も当たり前のように取得できる環境(法的なもの)作りが必要だと思う。	(女、40歳代)ほか

### 3 就業について

#### 問3 女性の働き方について

Q3 女性の働き方について、あなたの考え方は次のどれに近いですか。（近いもの1つに○）

図表3 女性の働き方について



女性の働き方について最も多く挙げられたのは、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」という選択肢が29.1%となりました。「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」（20.3%）と合わせると49.3%の人が女性も仕事をした方が良いが、子育てと仕事を両立することは難しい、と感じていることがうかがえます。また、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」という選択肢は23.3%となりました。

「子どもができるまでは仕事をもち、子どもができたなら家事や子育てに専念する」、「結婚するまでは仕事をもち、結婚後は家事に専念する」又は「仕事はもたない」の合計は13.1%となりました。（図表3）

「その他」の自由記載欄

本人の自由で良いと思う。	(女、40歳代) ほか
それぞれの家庭に合う方法を取るのが一番だと思う。	(女、40歳代)
設問のようなパターン化はあまり意味がないように思います。男性・女性の別はあまり問題としないでもよい。それはまず家族の問題。ついで社会の問題。男性・女性(父母)の状況でそれぞれだと思います。	(男、50歳代)
パートナーの希望に添います。	(男、40歳代) ほか
子どもが小学4年ごろになったら、正社員で働き、年金額を増す。	(男、70歳代以上)
1～6の選択肢が自由に選べる働き方がいいと思う。	(女、40歳代)
当人の考えを尊重する。働きたいのであれば、働けばよい。夫の収入で充分生活していけるなら、あえて働く必要はないのではと思う。	(男、60歳代)
子育ての時期は一時やめ、その後は本人(家族)の考えにより働き方を選択する。	(男、60歳代)
女性の仕事と子どもの有無は別だと思う。	(男、40歳代)
理想は仕事を続ける事だが子どもも大切。女性の意見を尊重する。	(男、30歳代)
定期的に各個人の女性の考えを聞いてからそれに合わせる。	(男、30歳代)
子育ての時期だけ、会社を休み、その後フルタイムが可能な社会。	(女、60歳代) ほか
子どもとの時間をもちつつ、仕事をする。	(女、50歳代)
どの様な選択をしても尊重されるべき。	(男、40歳代)
子育ての時期だけ一時的にやめ、その後パートタイム、子どもが大きくなったらフルタイムへ移行する。	(女、50歳代) ほか
能力を生かせる力がある方は、結婚や出産に関わらず仕事を続ける。	(女、70歳代以上)
その人の働き方が尊重されるような働き方。	(女、50歳代)
個々の考えで決めれば、いいことと思います。私自身、子育て、介護を終え、苦しいこともありましたが、それぞれの時期に大切なものを教えてもらいました。	(女、60歳代)
子育ての時期、夫と交代しながら男性と同じように仕事を続ける。	(女、40歳代)
事情、都合による。金のため。社会とのつながり。姑といたくない。	(男、60歳代)
本人が働きたい気持ちを周囲が抑え込まなければ、仕事をしようが家庭に入ろうが自由。	(女、50歳代)
状況に応じて決めていく。	(女、40歳代)
育児休暇を取り、その後は元の職場へ復帰できるようにする。	(男、70歳代以上)
子どもが大きくなり手がかからなくなれば、フルタイムが良い。	(女、70歳代以上)
仕事するしないは本人の自由。乳幼児にとって親の愛情は大切だから。	(女、70歳代以上)
家庭環境により、一律に答えが出ない。	(女、60歳代)
仕事はできる人がやれば良いと思う。	(男、30歳代)
結婚、妊娠するまで働き、育休を取り、一段落ついたら仕事復帰する。	(女、18・19歳)
結婚や子育ては夫婦の自己責任意識の確立が前提だが環境整備も必要。	(男、70歳代以上)
個々の事情は様々だが、女性が社会で積極的に活躍するのは望ましい。	(男、40歳代)
子育ての時期(0～2才位)だけ一時やめ、フル又はパートタイムで仕事を続ける。だが、仕事をするしないかは個人の自由だと思う。	(男、40歳代)

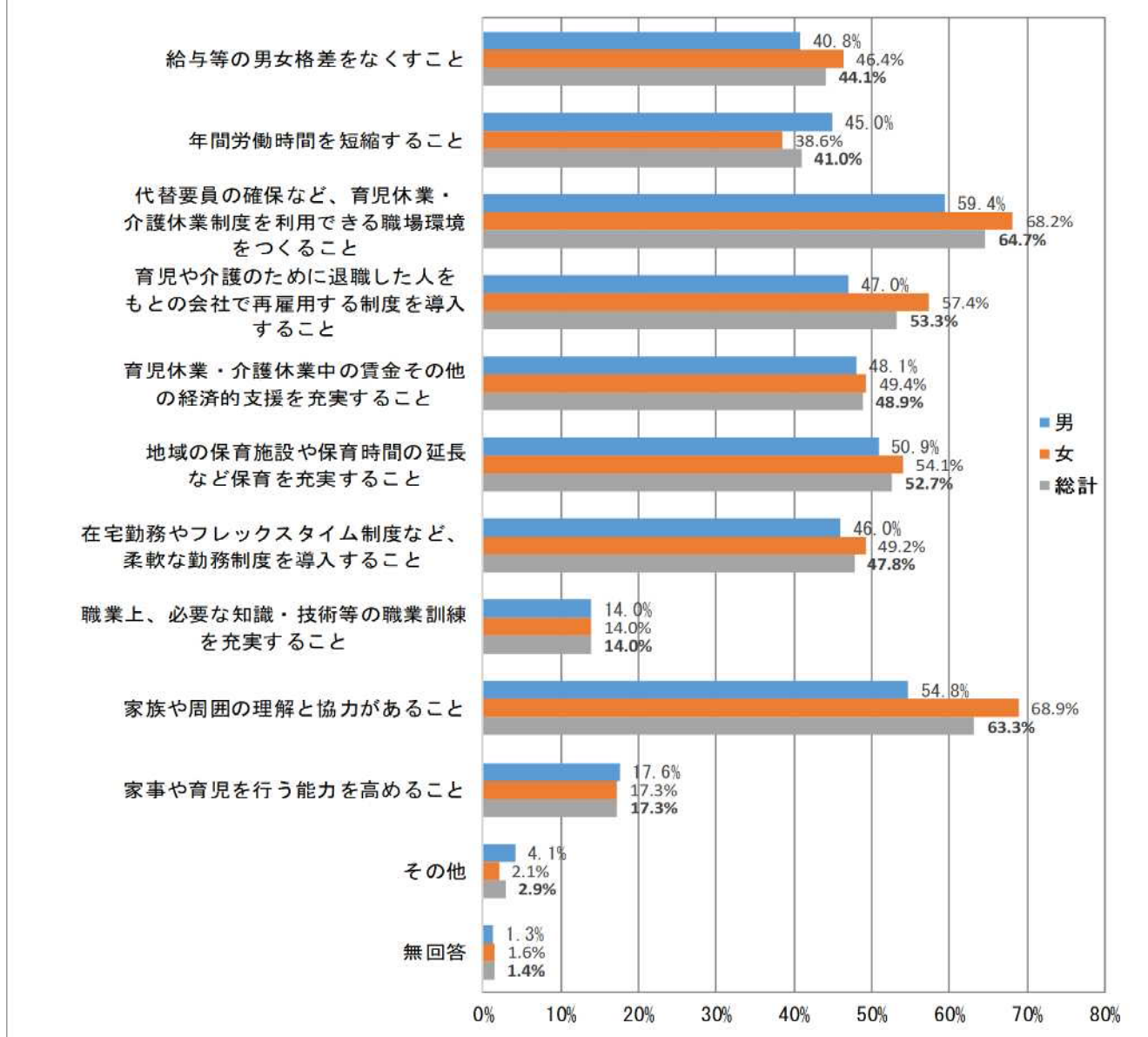


## 4 仕事について

### 問4 仕事と家庭の両立に必要なこと

Q4 男女が共に仕事と家庭の両立をしていくためには、どのような条件が必要だと思いますか。  
(〇はいくつでも)

図表4 仕事について



男女が、ともに仕事と家庭を両立するための条件として挙げているのは「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」(64.7%)が最も多く、次いで「家族や周囲の理解と協力があること」(63.3%)となっています。職場、または家族や周囲において、仕事と家庭の両立を支えるしくみが必要とされています。(図表4)

「その他」の自由記載欄

男性の意識改革。共働きでないとやっていけない時代に女性へ求める事が昔と変わらない。	(女、40歳代)
子どもは母親が家にいると安心、共働きは子どもの教育に良くない。	(男、50歳代)
家庭を持ったら個の事より家庭を中心に生き、子供を優先すべきです。	(男、50歳代)
病児保育の充実。	(女、40歳代) ほか
育児休業に対応できる業務内容を企業が用意する。	(男、30歳代)
体の健康に充分気をつけること。	(男、70歳代以上)
子どもは夫婦で育て、教育をする。	(男、70歳代以上)
家庭環境も大切です。	(男、60歳代)
保育施設（学童保育も含む）の質と数の確保。保育者の勤務条件の充実・向上。	(女、60歳代)
男女問わず相手の生活の現状をよく理解し、地域の人全体で配慮できることがないか考えられる環境を充実する。	(男、30歳代)
不要な仕事を整理すること。	(男、40歳代)
似たような境遇の人同士のコミュニティーを作る。	(女、30歳代)
育児後の職場での対応の必要性。	(女、50歳代)
短縮された労働時間で得られる収入で必要十分な生活が営める自治体であること。扶養控除の「壁」の撤廃。	(男、40歳代)
所得によって、条件が違いすぎることを改善したい。	(男、70歳代以上)
全項目が必要であろうと思われる。	(男、70歳代以上)
産休から代替職員を確保できるように。	(男、50歳代)
男の給料を上げる。	(女、70歳代以上)
職場内の保育施設の設置が必要。	(女、60歳代)
子育て期間はとても大事。夫婦どちらかの給料で生活できることが一番良いと思います。	(女、50歳代)
職場上司、年長者の意識改革。	(男、30歳代)
保育時間を延長をしなくてすむ様、職場環境を良くする。	(男、70歳代以上)
男女平等の職場環境作り。育児・介護のための時短や休暇の取りやすさ。働き方の多様性など。	(女、40歳代)
企業で託児所を併設して預けやすくする。	(男、50歳代)

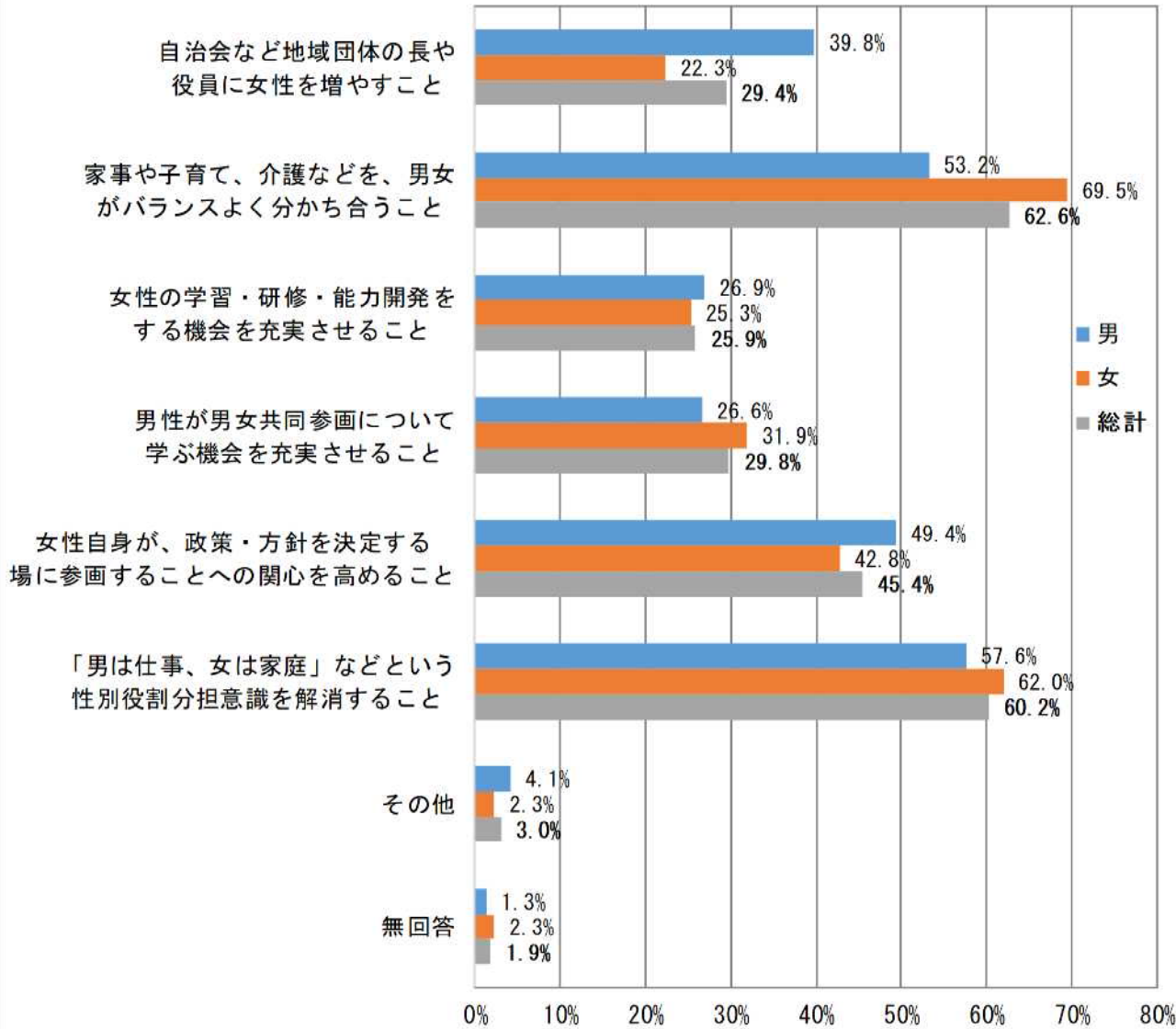


## 5 社会参加について

### 問5 女性が政策・方針決定の場に進出するために必要なこと

Q5 女性が、政策・方針を決定する場に進出するために、どのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

図表5 社会参加について



「家事や子育て、介護などを、男女がバランスよく分かち合うこと」（62.6%）が最も多く、次いで「『男は仕事、女は家庭』などという性別役割分担意識を解消すること」（60.2%）となっています。「男性だけが学ぶ」、「女性だけが能力開発をする」というよりは、「男女がバランスよく」という意識が家庭においても仕事においても必要と考えられていることがうかがえます。（図表5）

「その他」の自由記載欄

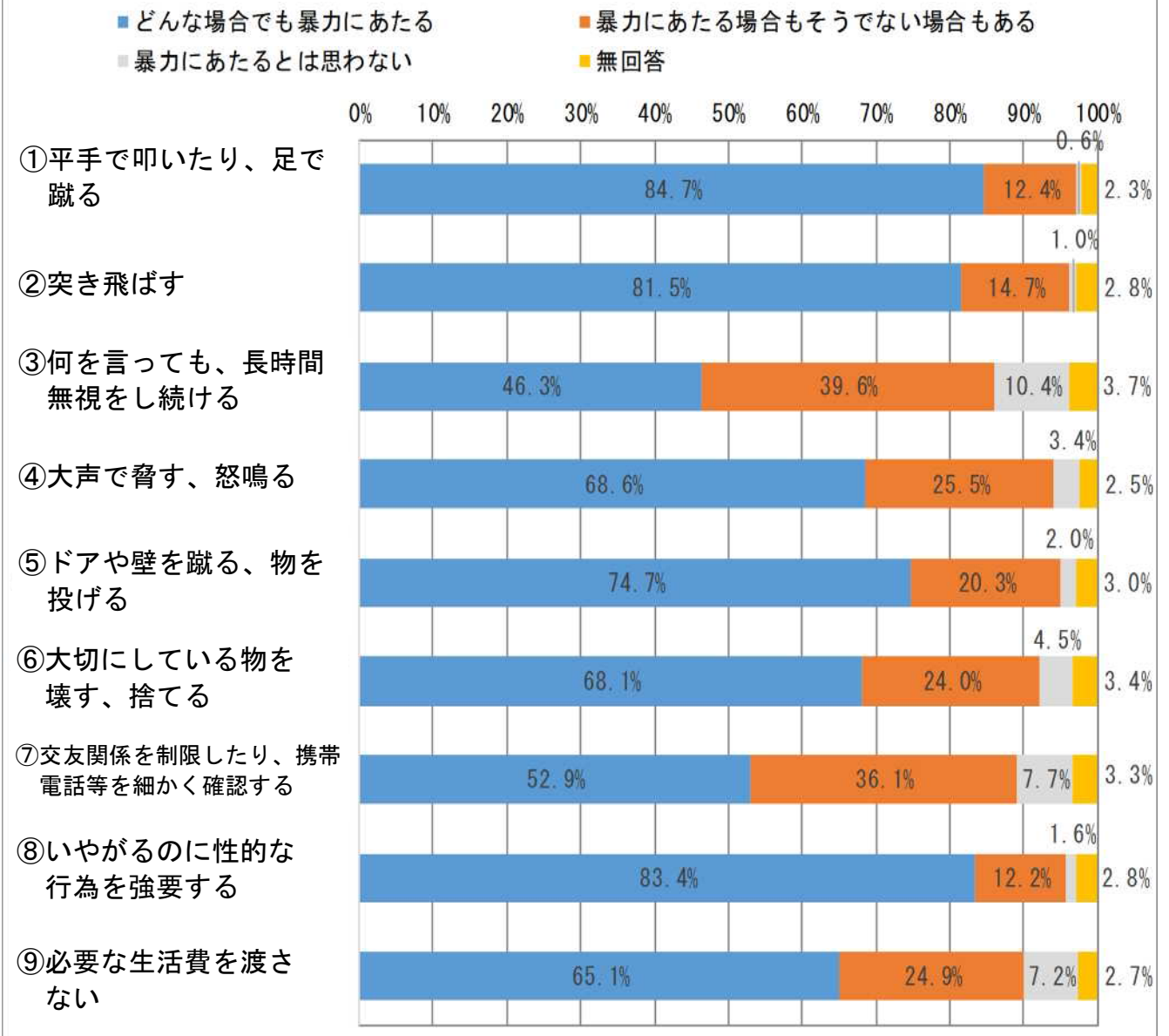
無理に女性を参加させることはない。	(男、50歳代)
働きたい方は働き、子供を自分で育てたい母親がいることを支援すべき。	(男、50歳代)
若年層への選挙への投票を促す。	(男、30歳代)
男女にこだわらず、ひとりの人間としてできることをする。	(女、60歳代)
給与等の男女格差がなくなれば。	(男、60歳代)
パート労働者の女性にも厚生年金保険に入れるように制度改革する。	(男、70歳代以上)
性差は消滅できるものではない。女性に負担をかけることを解消していく。女性も優れた知能能力を持っているので、それを抑圧しない社会がほしい。	(男、70歳代以上)
男・女ではなく一人の「人」としての能力を高める。	(女、60歳代)
自分自身の意思が必要。	(女、30歳代)
若い時から、他人とのコミュニケーションを実行する。	(男、70歳代以上)
本人の意識が大切です。	(男、60歳代)
私は女性が社会に進出するのは良くないと思う。→女性は家庭にいるのがよいと思う。私が子どものころは共働きの夫婦はあまりいなかった。子どもの頃に級友の家（共働き又は片親）に遊びに行ったが非常に家の中が寂しかったのを覚えている。その一方で母親が家にいる家庭はとてにぎやかだったのを記憶している。	(男、60歳代)
個の問題（それぞれの会社）ではなく、国全体で考えること。	(女、20歳代)
進出するための環境を整えることが大切だと思います。	(女、40歳代)
女性が子育て中でも安心して、色々な場に進出できる環境を作ること。	(女、60歳代)
テレビ会議でも参加可能にする。PCなどから。WEB投票。	(女、30歳代)
自治会の役割がよくわからない。会費を払っても何に使っているかもわからない。役員の飲食代が気になる。自治会館の掃除をするが使用したことはない。夏まつりは老人しかおらず、子どもの為のものはあまりない。	(女、50歳代)
自身の能力。	(男、30歳代)
家事の重要性を男女共に意識すること。	(女、40歳代)
小さい時から男女区別なく教育をしっかりする。	(男、70歳代以上)
本人次第。	(男、70歳代以上)
女性が「No.1になりたくない」という固定観念を持たないようにする事が必要かと。	(男、60歳代)
子育て中、介護中の家庭の大変さの声を、自治会が聞く耳を持ってもらうこと。	(女、50歳代)
女性の管理職を増やす。女性議員も増やす。	(男、70歳代以上)
女性が自分の意見を主張する事にほとんどの男性が批判的だと感じるし、結局意見は通らないと思う。このような男性優位な風潮があるうちは、難しいので、もっと根本的に男女平等の考え方を公的場所から実践したらいいと思う。例えば市役所の職制半分女性、小中学校の校長の半分女性など、意見が言える立場に女性を置く。	(女、40歳代)
総じて女性は消極的、甘えがある。	(男、50歳代)

## 6 暴力について

### 問6 夫婦間の加害行為について

Q6 次の①～⑨のようなことが夫婦や、恋人の間で行われた場合、それをどのように感じますか。

図表6 夫婦間での加害行為



Q1で「ドメスティック・バイオレンス（DV）」の言葉の認知度について、93.5%が「聞いたことがある」と多くの回答が挙げられています。

夫婦や恋人間での加害行為については「①平手で叩いたり、足で蹴る」（84.7%）、「②突き飛ばす」（81.5%）といった身体的な被害を及ぼす行為に対しては、高い割合で「どんな場合でも暴力にあたる」と感じています。他方で、「③何を言っても、長時間無視をし続ける」といった身体的な被害を及ぼさない行為に対しては、「どんな場合でも暴力にあたる」と感じる割合は46.3%と約半分になっています。

他の項目④～⑨においても「どんな場合においても暴力にあたる」が過半数を超えています。

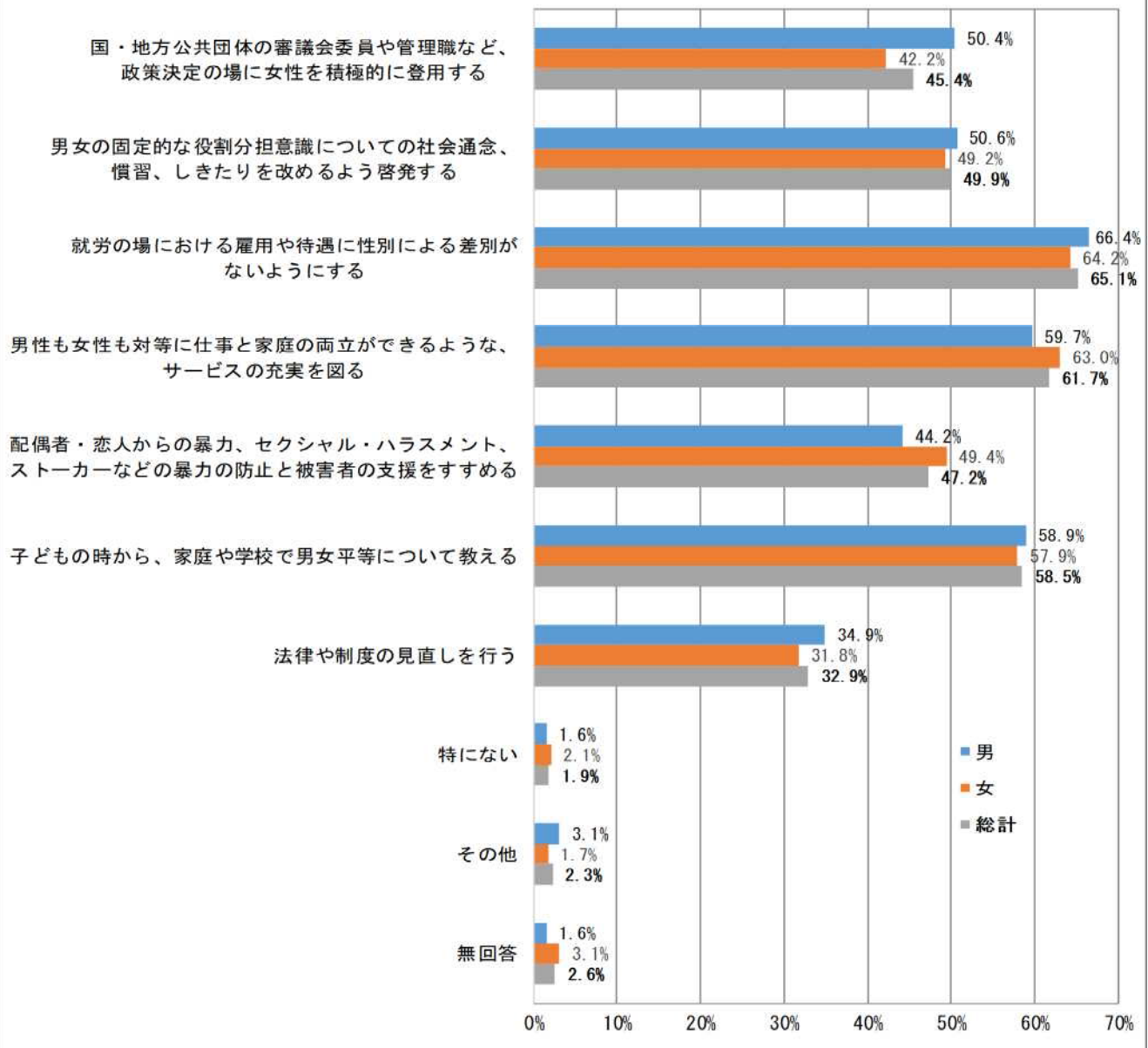
身体に対する暴力以外にもさまざまな形態の暴力（精神的暴力、性的暴力、経済的暴力）があるという認識が広く浸透していることがうかがえます。（図表6）

## 7 市の男女共同参画の推進に関する施策について

### 問7 男女共同参画社会実現のために市が力を入れていくべきこと

Q7 男女が互いに尊重しあい、個性と能力を十分に発揮できる「男女共同参画社会」を実現するために、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（〇はいくつでも）

図表7 市の男女共同参画の推進に関する施策について



「就労の場における雇用や待遇に性別による差別がないようにする」（65.1%）が高く、次いで「男性も女性も対等に仕事と家庭の両立ができるような、サービスの充実を図る」（61.7%）となっています。続いて「子どもの時から、家庭や学校で男女平等について教える」（58.5%）も高くなっています。（図表7）

「その他」の自由記載欄

男女は同権でなければならないが、生物学的に質が異なる事を考えるべき。※働きたい人は守られるべきですが。	(男、50歳代)
義務教育で、男女共同参画を教える。	(男、70歳代以上)
現代の増大する災害、社会情勢の多様性の元では、課題が多くて大変だなと思います。	(女、70歳代以上)
男女共同参画社会についての話し合いの場を積極的に設ける。	(男、30歳代)
就業時間が長すぎる。	(男、70歳代以上)
男女の特性、個性を考慮した施策も必要に思う。	(男、60歳代)
相手の事をよく見聞きし、理解し、問題が良い方向になるように取り計らう。	(男、30歳代)
各企業への周知徹底。研修の促進。スマートフォンへの広告を展開する。	(女、30歳代)
税金の支払いが多すぎる。	(男、20歳代)
海外の働き方制度などを学び、皆の意識を変えていく必要を感じます。	(女、50歳代)
やはり基本的なのは、人間としての交流関係、コミュニケーションが大事。	(女、60歳代)
男女(家族、近隣)お互いに助け合って暮らすことが一番大切かなと私は思います。	(女、60歳代)
DVなどの加害者に対する教育(支援)を行う。	(女、40歳代)
女性にしかできない事、男性にしかできない事も深く考えてみる必要があると思う。	(男、60歳代)
職場内での管理者・職のコミュニケーションの場が欲しい。	(女、60歳代)
女性を登用するというのが、そもそもです。男女関係なくやる気のある方に頑張って頂く。	(女、50歳代)
企業・会社の上司、年長者への働き方と意識の改革の啓蒙と制度づくり。	(男、30歳代)
真の男女平等は難しいと思う。男と女はやはり違う。	(男、70歳代以上)
女性議員を増やす。(4~5割)	(男、70歳代以上)
適任者は、男女関係なく登用すべき。	(男、70歳代以上)
男性も女性も対等に仕事と家庭の両立が出来るような法律や制度が必要。	(女、40歳代)

## 8 男女共同参画社会の実現に向けて自由意見（抜粋）

男女共同参画社会の実現にあたってのご意見・ご感想を189人の方から、いただきました。  
ここでは、その一部を掲載します。

男女共同参画社会は基本的には、とても良いことだと思うが、性別でどうしても得手不得手のことがある。それを理解した上で進めるべきだと思う。（決して押しつけにならないように望みます。）	(女、50歳代)
私は医師になるために大学へ通っておりますが、将来仕事に就くにあたり、保育制度や育児休暇を取る際の世間の目や女性に優しくない育児制度の改革など行って頂きたいです。	(女、20歳代)
男女平等の社会は、良いことであるが、子育ての中では母性を必要とする時期があるので、母性を否定することのないように行政はリードして欲しい。	(女、50歳代)
共同参画とは、必ずしも男女同数のポストが必要なのではなく、働きたい女性が性別を理由にキャリアワークを妨げられてはいけないことだと思う。家庭に入り子どもの面倒を見る方が、無理に働かなければいけないのは、推進派の少数意見抹殺であり、自分が差別されていたと感じていた事を別の立場の人に移しただけの事で、解決にはならない。働く人も子育て専任の人も行政が、税制・補助金等で援護し自由に選べて差がないようにすべき。	(男、50歳代)
日本は戦前まで「男尊女卑」という考え方が続いていた。戦後74年もたってもそういう考え方がまだ続いていると思う。「同一労働、同一賃金」とかも、だいぶ前から言われているが、男女の格差とか、社員とパート・アルバイトの差とかがあると思う。	(女、60歳代)
会議の開催条件を限りなく、男女半数で行うようにしたら良いと思う。	(男、50歳代)
男女共にお互いの状況をまず理解するのが大事だと思います。それには、実際に体験してみないとわからない事が多いはずで、可能かわかりませんが、例えば、パパとママの一日をお互いチェンジして、育児をパパがやったり、ママがパパの仕事見学をしたりしたレポートを広報などにのせるコーナーなどがあれば、間接的に男性と女性の立場を多くの方が理解できるのではと思います。	(女、30歳代)
男らしくないとか、女だからこうしろ等、偏見や差別意識を無くした、皆が暮らしやすい社会が実現することを願います。40代、50代、60代は見て、男女共に相手への尊敬や感謝の気持ちがないように見える。自分がされて嫌なことを相手に平気でやる様な世代が上にまだまだ控えているので変えていくのは難しいと思うけど、少しずつ変わっていけるよう、若い世代が頑張ろうと思う。	(男、20歳代)
人として、どう生きるのか、ひとりひとりが自分の生き方を選んでいい。法律や慣習を守って、今できることをする。法律などがおかしいと思ったら、そのことをどうしたらいいか考える。ひとりよがりにならず、他者との協力、議論をする。あきらめることなく、よりよい方法を考えていく。子どもの教育がいちばん大事だと思います。	(女、60歳代)
子どもを産むのは女性しかできません。女性の社会進出は能力があり、希望されている方々には、チャンスを与えるべきですが、まずは女性が安心して子どもを産め、育児に専念できるような経済的な支援が必要だと思う。（ベーシック	(男、40歳代)

小・中学校の夏休みの短縮。土曜日午前中の授業を取り入れるなど、教育委員会が教師の方へ目を向けるのではなく、子どもたちに目を向けて女性が働きやすい環境を整える。教師の数を増やして、土曜等に対応するなどできることはある。	(女、60歳代)
男女と言っていますが、カップルの事ばかりで、一人者への事が何もないのがいつもさみしい。一人で生きている人への支援が何もない!これからは一番に考えてほしい。	(女、40歳代)
私は昔人間で家事育児は妻まかせで今もって何もできません。妻には呆れられ早く逝けと言われていています。今の若い人は何事も共同でないといけません。	(男、70歳代以上)
労働時間、意識を変えて、男性が家庭で過ごせる時間を増やすと同時に、女性の社会参加、働きたいという意識を高めてほしい。男性は仕事、女性は家庭という意識がなくなれば良い。社会では、男性がしてあげる女性はしてもらい、家庭では女性がしてあげる男性がしてもらいという意識になっている気がする。	(男、20歳代)
男女給与等格差をなくす。	(女、70歳代以上)
環境作りが大切⇒男性側は女性を重要なポストにどんどん登用する⇒登用された女性たちが社会参画の礎を作る。	(男、60歳代)
男女平等の形が色々あります。男女は絶対同じにはなりません。ただ女子がしたいことにチャンスを与えてほしいです。「女だからだめです」これを無くしてほしいです。私の娘が少年サッカーに入れていただいたことはとっても嬉しかったです。(20年前です)3年間男の子と一緒に練習などしました。男の子のチームだったのですが、その年3人女の子が入って本当によかったです。チャンスを下さった監督に感謝です。	(女、60歳代)
企業職種によってはかなり進んでいる。(競争原理)年長だから男だから能力が高いという幻想・固定観念はだめ。女性も本気で仕事と戦う覚悟が必要。	(男、60歳代)
そこまで女性に気を遣う必要はないと思うが(優秀な女性は活躍している)給料や結婚・出産後のケア・男性の家事育児による企業側の理解は欲しい。	(男、20歳代)
男性が家事に参加する事が恥ずかしいという意識を変えることが、男女平等への家庭内での第一歩だと思います。私の家庭もそうですが、夫の両親も夫も、男は家事に手を出すことはありません。女がやるのが当たり前なのです。そんな意識を変えるのは難しいです。東松山市でもっと推進していただけると助かります。	(女、40歳代)
今は、昔ほど家事は女がするものという考えが少なくなっていると思う。しかし年配の方やお年寄りも、家事育児は女、仕事をするのは男、稼いでいるんだと考えている人は多い。ならばもっと有休育休を男の人でも取りやすい環境にしたり、フレックス出勤等を広めてほしい。結局、一番大変なのは、家事育児。仕事をしている女の人。それなのに評価が低い。	(女、30歳代)
政策決定の場に女性が進出できるようにするには、意識を変えることと保育や介護の充実などの環境整備が大切だと考えます。このようなアンケートをとるなど、市民の声を大切にしてください。	(女、60歳代)
男女共同参画や男女平等については、学校で教えても理解しづらい事だと思います。実際にそういう社会をつくり、大人が示す事で自然とそれを理解し身につけていくことだと思います。私は家事を分担または協力して行う両親の姿や育休や時短で働く先輩をみてそれが当たり前だと思っていました。	(女、30歳代)



女性は結婚＝出産に向かう人が多数いますが、育休は当然の権利です。男性の育休はまだまだ取りたくとも周囲に気を遣い取りにくい現実です。共に働く人の意識と理解が必要だと感じます。小学生からの教育が必要だと思って	(女、60歳代)
男性と女性は同じではないと思う。女性は女性の優位な場所で力を発揮すればよいと思う。男性は男性の優位な場所で力を出せばよいと思う。	(男、60歳代)
勤めていた会社で、結婚している女に将来性はないから、給料を増やさないとの話が役員会議で出ていた。社長の意見と言われ、会社を辞めた。市でどうにかしてほしい。サービス残業を黙認している。課長職だが、会議にも出	(女、40歳代)
自分自身女性の上司で差別を受けています。男性を理解できる女性に参画してもらいたいものです。	(男、50歳代)
育児休業制度の周知。男性が育児休業を取得する事が当然にならなければ、女性の社会参加も難しい。	(男、30歳代)
20代女性にはぜひ出産・育児を優先してほしいです。男性は出産育児に協力する事。出産育児には市で協力する。これは国かもしれないが、法律や制度の見直しを行う。女性20代での出産を(2～3名)優先してほしいで	(男、70歳代以上)
息子が結婚して、イクメンに変身。共働きなのでやらざるをえないようです。子どもが小さいうちは、在宅・時短で働く制度、保育園の充実を願います。	(女、60歳代)
職場でも、家庭でも無理に男女の区別などせず、お互いに助け合う関係を築き、不快だと思う事は、あいまいな言葉ではなく、毅然とした態度と言葉で伝える。その先に市のサポートがある事で安心して対応できると思います。	(女、60歳代)
海外のように、子どもを一人でおいてはNGというようになれば、大人が子どもに関わる時間を必ず作れるような世の中になるのでは?と思う。今の日本は送迎はおろか、放課後、夏休み、冬休み、春休みすら子どもと一緒にいられない。子どもを増やすように言っても、それに伴って社会環境の整備ができていなければ、結局、社会参加できなくなるのは女性。	(女、30歳代)
先日土地の測量をしている女性がハツラツと見え、川沿い道路の草刈りをしている女性に一層ご苦労様の気になりました。(もっと実践面での女性の登用から考えたらいかがでしょう)	(男、70歳代以上)
個人的に「女性管理職〇%を目指す」といった方策は反対です。能力できちんと評価してほしい。数字ばかりが先行し、無能な能力の低い人が管理職になると、余計に女性の立場が悪くなると思う。	(女、20歳代)
もっと男性が気軽に育児休暇を取れる意識・制度を高めるべきだと思います。公務員の中でもまだまだですが、民間はもっと取りづらいです。	(女、30歳代)
男女平等といっても、男性にはもっと積極的にリーダーシップを取ってもらい、子育てはなんといっても母親が中心となって、そして男性も理解を深めながら、バランスのとれた社会になってほしいです。女性の社会進出は大事	(女、60歳代)
昔の考え方ではありませんが、男性の役割、女性の役割はあります。お互いに尊重しあって、協力する事です。男性だって病気になります。女性だって、外で働いてきたときは、男性に助けてほしいと思います。11年間働きその後、専業主婦でしたが、子育ては楽しいものでした。今は老後に入り、夫と仲良く、助け合って暮らしています。	(女、70歳代以上)



私は日々、女だからといって、結婚や子育てのために、好きな仕事を辞めなくてはならないという社会の考え方に疑問を持っていました。私自身も、今の仕事が好きなので、極力辞めたくはないし、育児のために一時休んだとしても、復帰したいと強く思います。これからは、男性も子育てや家事に積極的に参加して、男女で共に協力してやっていくべきだと思います。	(女、20歳代)
市だけでなく、国会でも意見等を出し、真剣に取り組む様にしないと、市町村だけでは、限界が有るので、国会でも議論して法律や制度の見直しを早急にして貰いたい。	(男、50歳代)
私は根本的に男性と女性では違いがあると思います。なんでも、かんでも平等には反対したいです。個々の能力を認め仕事をしていけるような社会にする事には賛同したいです。	(女、70歳代以上)
婚活支援に取り組んでいただきたいと思います。川崎市や北本市など多くの市が相談窓口を設けていると思います。	(女、40歳代)
私の時代は専業主婦はあたりまえでしたが、今、女性も世の中で働く喜びを持つことが出来る世の中。幼少期から自立を目指して学んでほしい。男子には家事も父母が教えないといけませんね。男女の区別なく。	(女、70歳代以上)
教育・労働・政治といったような事柄について、差別的な考え（男尊女卑）を持つような人間が、例えば教師・政治家・企業のリーダーなどになってはいけないと思う。もし、そういう人間だと確認できたら、当人が進退を決めるのではなく、辞めさせるべきだと思う。	(男、30歳代)
まずは、女性をフォローできるように、男性（夫）の自由時間、余暇を充実させるべきです。仕事が忙しくては女性を助けることはできません。違法就労、ブラック企業対策も同時に行って欲しいです。あとは高齢者が意識を変えてほしい。時代は違うのだと分からぬ老人が多すぎます。	(女、40歳代)
市がこのような取り組みを行っていることを初めて知りました。正直あまり浸透していないように感じます。女性が一人でも（又は子どもがいても）生きていけるひとりひとりが自立できるような世の中になれば、自然と差別も	(女、40歳代)
まず、議員と管理職の半分を女性にする。	(男、40歳代)
男女が全て平等という社会は、本当に必要なのでしょうか。本当にみんなが希望しているのでしょうか。積極的に前に出て活躍したい人もいれば、表に出ず裏で支えたい人もいて、それは、男女の性別とは関係なく、やりたい人	(女、40歳代)
若い人の給与が概して低いため、主婦も働かざるを得ない状況にある。女性の就労環境の整備は図られて行かなければならない。	(男、60歳代)
働きたい女性もいるのかもしれませんが、「男は仕事、女は家事」で成り立つ家庭が1番理想的だと思うので、税金を納める若者を増やしたいのは分かりますが、無理に女性を働かせる社会にする必要はないと思います。男性の給料が多くなればいいだけの話です。出産という働けない期間だけ休み、あとは働けなんておかしいと思います。	(女、20歳代)
私の若いころは、セクハラ・パワハラは普通でした。声を上げるのが遅いと思います。女も男もジェンダーも人間です。差別のない社会で子育てし、働きたかったです。	(女、70歳代以上)
家庭の環境が大切。子どもは男女ともに育てるものである事を夫婦で考える。原点はここであるが、現実は大変な社会であり、この精神で子育てができたならと反省しているところである。多少でもこの心を持って子育てをす	(男、70歳代以上)

育児が終わった後の社会に戻った時の環境づくりと周囲の理解が最も重要だと思います。	(男、30歳代)
仕事のステップアップをしたかったが、支援を受けられず諦めました。子ども持ちなら支援があるのに、子どもなしはない。配偶者が障害者でフルに働けないので、私のステップアップと勉強のために仕事を減らしていかなくてはならず、収入がなく生活ができない。残念でならない。差別ですか。	(女、30歳代)
女性が台頭して来ると、出る杭は打たれるのが、まだまだ常である。小さい時からの教育を見直し、自分の意見を皆の前で自然に発表できるその様な授業をしてほしい。急に男女共同参画は難しい。時間をかけて、推進してもらいたい。男と女は、生まれた時から体そのものが違う。その事も踏まえたい。これから進めてもらいたい。	(女、70歳代以上)
スーパーのカーターの片づけをしていたシルバーの男性に、「女性も、この仕事をしている人がいますか？」と尋ねたら、「いないと思うよ」と答えました。女性はほとんどお掃除でとても残念に思いました。カーターの片づけ位、女性でもできるし、掃除も男性だってできます。まだ他にも感じる事はありますが、書ききれません。	(女、70歳代以上)
ギスギスした社会にならない様、常に他者の意見を尊重する教育を幼少の頃から、行っておく事が必要であり、社会の寛容がバックにある事が、男女共同参画社会の実現に寄与すると考える。	(男、60歳代)
賃金格差があるのは、本当に納得できない。子育て中の主婦が生き生きと働ける場を行政が作るべき。(時給も高く)主婦は気が利くし、とても良い人材なのに世の中は分かっていない。	(女、40歳代)
我が国で男女共同参画社会が実現できていないのは、古くからの慣習・しきたりによるものが多い。異文化、例えば海外の知見者を招いて、意見を求めるのも良いかと思う。	(男、40歳代)
生きてきた環境が異なる事、男性には子どもは産めないこと。男性、女性、性別による特徴をお互い理解し合い、認め合いながら、協力しあう。役割分担で長所を高め、短所をカバーし合えることを心掛けていきたいと常に感じています。感謝する気持ちを育てることが大切で、それは心のゆとりが必要なのでしょうね。	(女、50歳代)
現在19歳の私は、男女共同参画に関する授業を中学で学んだ。そのため、10～30代手前までの層の間ではこのことに関する理解は深いと考えられる。(もしくは、耳にしたことがある)改善すべきは、年配層の方々の男女の地位や身分にかかわる考え方なのではないかと私は考える。	(女、18・19歳)
義務教育で「道徳教育」をきちんとすれば、事足りる。社会は、適材適所の考え方で良い。何でも「平等」なんていうから世の中が狂う。	(男、70歳代以上)
待機児童を無くすことがまず最初にやるべき事だと思います。働く意欲がある人を働けなくしている一番の原因と考えます。早急にこの問題解決に取り組んでいただきたい。	(男、20歳代)
古き風習の根絶。50歳以上の方の考え方が何をしても変わらない。	(男、30歳代)
子どもが出来ると、母親は育児に時間を取られ、仕事に集中しにくくなりますが、公的サービスが充実していれば、仕事の時間もとれて、会社にもプラスになり、社会にもメリットがあります。待ったなしで保育園の充実をお願いします。	(女、60歳代)

暴力される方の支援も大事だが、する方のケアを充実しないとなくなってしまうと思う。（世の中がどんどん悪くなる！）他人にも迷惑かかる社会になってしまう。	(女、50歳代)
近年このような動きが活発になっているが、どれも稚拙すぎないだろうか。これまでの人類の歴史を考えても、何千年もの間「男は外で仕事をして、食料や収入を得て、女は家で家事育児をする」というのが当たり前だったわけで、それをたかが数十年の活動でくつがえそうとするのは、元来無理だと思う。この価値観を変えるには、数百年とかかることだと思うので、それにあった計画を進めて行くべき。	(男、20歳代)
男女が均等に社会へ参画するには、女性が家事・育児の大半を担っているうちはムリだと思う。男性が働いている職場の改革が大前提です。それと、保育施設のサービス充実へはあまり賛成できない。結局子どもが親といる時間が少なく、かわいそうだし、親にとっても、その状況に後ろめたさから、苦しくつらい思いをするだけだと思う。	(女、40歳代)
育児休業を男性が取りにくい雰囲気を作ったり、実際に取れないと男性は育児に参加しにくくなると思います。	(男、18・19歳)
男性向けの料理教室、育児サークル等、仕事帰りに参加できる時間帯など増やしていけたら、育児・家事に対して不安を持った男性に喜ばれると思います。男性の憩いの場を設けて欲しい。	(女、40歳代)
なかなか男女平等になれないのは、社会通念や慣習が根底にあるからだだと思います。男性の意識改革はもちろん、女性の意識も変えていくべき。子供が男女平等が当たり前だと思えるように、その考えをつぶさない大人達が増えるべきだと思います。	(女、40歳代)
家族と一緒に過ごす時間、日々の暮らしにゆとりを持てるような働き方ができるようにすべきだと思う。年間の休日の日数を増やしてほしいし、年末年始といった冬季休暇も欲しい。（正社員の場合）非常勤の人も、有給として、そういった休みがより多くとれるよう国の制度として考えて欲しい。年間休日が105～125日といった開きはいかがなものかと思う。最低の日数を引き上げるべき。	(女、30歳代)
子どもがいない夫婦であれば、男女共同参画社会は、実現しやすいのかなと思う。子どもがいることで、女性には産みの苦しみ、男性にはお金を稼がないといけない思いがあり、それぞれ相手に不満を抱くようになると思う。女性（母親）に対して、手当（育児）を厚くしたりして、育児に使う時間を増やせば、状況も変わると思う。	(男、50歳代)



## 男女平等に関する意識についてうかがいます

Q5 あなたは次の言葉を知っていますか。(項目ごとに○を1つ)

	良く 知っている	だいたいの 意味は分かる	聞いたこと がある	知らない
①男女共同参画社会	1	2	3	4
②男女雇用機会均等法	1	2	3	4
③育児・介護休業法	1	2	3	4
④女性活躍推進法	1	2	3	4
⑤東松山市男女共同参画推進条例	1	2	3	4
⑥ジェンダー	1	2	3	4
⑦仕事と生活の調和(ワークライフバランス)	1	2	3	4
⑧ドメスティック・バイオレンス(DV)	1	2	3	4
⑨東松山市配偶者暴力相談支援センター	1	2	3	4

## 家庭生活についてうかがいます

Q6 今後、男女がともに家事、育児、介護、地域活動(以下、家事等)に参加しやすくするために、どのようなことが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

- 1 男性が家事等に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす
- 2 男性が家事等に参加することに対する女性の抵抗感をなくす
- 3 夫婦や家族間でのコミュニケーションを良く図る
- 4 年配者や周囲の人が、夫婦の役割分担について当事者の考えを尊重する
- 5 社会の中で、男性による家事等についても、その評価を高める
- 6 男性による家事等について、職場における情勢や周囲の理解を進める
- 7 労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどの多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする
- 8 男性の家事等について、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行う
- 9 男性が家事等を行うための、仲間(ネットワーク)づくりを進める
- 10 その他( )



## 就業・仕事についてうかがいます

Q7 女性の働き方について、あなたの考え方は次のどれに近いですか。(近いもの1つに○)

- 1 結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける
- 2 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける
- 3 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける
- 4 子どもができるまでは仕事もち、子どもができたら家事や子育てに専念する
- 5 結婚するまでは仕事もち、結婚後は家事に専念する
- 6 仕事はもたない
- 7 その他( )

Q8 男女がともに仕事と家庭の両立をするには、どのような条件が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

- 1 給与等の男女格差をなくすこと
- 2 年間労働時間を短縮すること
- 3 代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること
- 4 育児や介護のために退職した人をもとの会社で再雇用する制度を導入すること
- 5 育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実すること
- 6 地域の保育施設や保育時間の延長など保育を充実すること
- 7 在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること
- 8 職業上、必要な知識・技術等の職業訓練を充実すること
- 9 家族や周囲の理解と協力があること
- 10 家事や育児を行う能力を高めること
- 11 その他( )

## 社会参加についてうかがいます

Q9 女性が、政策・方針を決定する場に進出するために、どのようなことが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

- 1 自治会など地域団体の長や役員に女性を増やすこと
- 2 家事や子育て、介護などを、男女がバランスよく分かち合うこと
- 3 女性の学習・研修・能力開発をする機会を充実させること
- 4 男性が男女共同参画について学ぶ機会を充実させること
- 5 女性自身が、政策・方針を決定する場に参画することへの関心を高めること
- 6 「男は仕事、女は家庭」などという性別役割分担意識を解消すること
- 7 その他( )

## 暴力についてうかがいます

Q10 次の①～⑨のようなことが夫婦(事実婚や別居中を含む)や、恋人の間で行われた場合、それをどのように感じますか。あなたの考えに近いものを選んでください。(項目ごとに○を1つ)

	どんな場合でも 暴力にあたる	暴力にあたる場合も そうでない場合ある	暴力にあたるとは思わない
①平手で叩いたり、足で蹴る	1	2	3
②突き飛ばす	1	2	3
③何を言っても長時間無視をし続ける	1	2	3
④大声で脅す、怒鳴る	1	2	3
⑤ドアや壁を蹴る、物を投げる	1	2	3
⑥大切にしている物を壊す、捨てる	1	2	3
⑦交友関係を制限したり、携帯電話等を細かく確認する	1	2	3
⑧いやがるのに性的な行為を強要する	1	2	3
⑨必要な生活費を渡さない	1	2	3

## 市の男女共同参画の推進に関する施策についてうかがいます

Q11 男女が互いに尊重しあい、個性と能力を十分に発揮できる「男女共同参画社会」を実現するために、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(○はいくつでも)

- 1 国・地方公共団体の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する
- 2 男女の固定的な役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めるよう啓発する
- 3 就労の場における雇用や待遇に性別による差別がないようにする
- 4 男性も女性も対等に仕事と家庭の両立ができるような、サービスの充実を図る
- 5 配偶者・恋人からの暴力、セクシャル・ハラスメント、ストーカーなどの暴力の防止と被害者の支援をすすめる
- 6 子どもの時から、家庭や学校で男女平等について教える
- 7 法律や制度の見直しを行う
- 8 特にない
- 9 その他( )

最後に、男女共同参画社会の実現にあたって、ご意見・ご感想がありましたら、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。回答は、同封の返信用封筒に入れ9月30日までに郵便ポストへご投函いただくか、市役所・各地区市民活動センターへお届けください。

令和元年度  
男女共同参画についての市民アンケート  
報告書

令和2年3月

発行 東松山市 市民生活部 人権推進課 男女共同参画グループ  
〒355-8601 東松山市松葉町1-1-58  
TEL 0493-21-1416 (直通)  
FAX 0493-23-2236